

令和7年11月13日

「第19回細菌学若手コロッセウム」開催報告

令和7年10月24日(金)から26日(日)の3日間にわたり、「第19回細菌学若手コロッセウム」を、北海道の酪農学園大学およびKUBOTA AGRI FRONTの2会場にて、対面形式で開催いたしました。本年度は、31名の学生を含む41名の皆様にご参加いただき、盛況のうちに無事終了いたしましたので、ご報告申し上げます。

今回は、特別講演2件、一般口頭発表15件、ポスター発表30件、ランチョンセミナー1件(NDTS株式会社)が行われ、活発な質疑応答や討論が交わされました。特別講演では、国立健康危機管理研究機構の氣賀 恒太朗先生に『ファージと細菌の攻防から見えてくる絶え間ない進化のサイクル』のタイトルでご講演いただき、東京大学の北島 正章先生には『ウイルス感染症の下水疫学:学問分野の開拓から社会実装まで』のタイトルで、それぞれ最新の研究成果や留学を含むキャリアパスについてご紹介いただきました。

昨年度(第18回)に引き続き、初日の交流企画として「ウォーキングポスター」セッションを実施しました。A3サイズのポスターを首から下げ、参加者同士が自己紹介や研究内容を紹介し合うことで、特に初参加の学生からも「分野の垣根を越えて活発に交流できた」、「研究のモチベーションが上がった」といった声が聞かれ盛況となりました。2日目の夜にはサッポロビール園において情報交換会を行い、3日目には会場となったKUBOTA AGRI FRONTのテクニカルツアーを実施するなど、北海道に来て頂いたからこそ経験できる「食と農」という本会ならではのテーマも交え、研究室や専門分野を越えた多角的な交流の場を設けることができました。これらの企画を通し、細菌学の将来を担う若手研究者の交流の促進・活発化、また微力ながらその教育にも貢献できたものと考えております。

本会では、参加者全員の投票により、優れた発表を行った発表者を表彰いたしました。若コロ優秀賞として、口頭発表から3名(最優秀賞1名、優秀賞2名)、ポスター発表から2名(最優秀賞1名、優秀賞1名)が選ばれました。また、米国微生物学会(ASM)の支援を受け、世話人幹事の藤木(ASM Young Ambassador to Japanを兼務)よりASM Best Poster Awardが1名に授与されました。本会独自の企画として、演題登録時にトラベルアワードへの応募も同時に開始し、申請された「研究内容(演題抄録相当)」および「若手微生物学者の抱負」を基に3名を選考しその表彰も行いました。

最後になりますが、本会は日本細菌学会の多大なご支援、ならびに米国微生物学会、株式会社クボタ、NDTS株式会社、尾崎理化株式会社をはじめとする多くの団体・企業のご支援・ご協賛・ご協力を賜り開催できました。皆様のご支援とご協力に、世話人一同、心より感謝申し上げます。引き続き、本研究会への継続的な開催へのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

第19回細菌学若手コロッセウム

代表世話人：岩野 英知(酪農学園大学)

世話人幹事：藤木 純平(酪農学園大学)

世話人：池田 秀斗(早稲田大学)、木村 宇輝(鳥取大学)、

杓野 祥子(国立健康危機管理機構)、須田 和奏(東京農業大学/慶應義塾大学)

遠山 茉奈(北海道大学)、星子 裕貴(北里大学)